



三菱UFJリース

2012年3月期第2四半期 決算概要

決算発表日：2011年11月8日

- お問い合わせ先
広報IR部
TEL 03-6865-3002 FAX 03-6895-5306
- 当社ホームページアドレス
<http://www.lf.mufg.jp/>（日本語）
<http://www.lf.mufg.jp/english/index.html>（英語）

※本資料には現時点での将来予測数値が含まれますが、将来の様々な要因により変動することがありますので、ご注意ください

Value Integrator

目次

1. 2012年3月期第2四半期決算概要	3
2. 連結決算主要項目の推移	4
(1) 損益計算書 関連項目	4
(2) 貸借対照表 関連項目	6
3. 資金調達の状況	8
4. 貸倒関連費用等	9
5. 主要連結構成会社の決算概要	10
6. 営業状況(契約実行高)	12
取引種類別内訳、取引種類別構成比	12
機種別(リース・割賦)、取引形態別(金融・その他)内訳	13
7. 営業の取組み	14
1) オペレーティングリース	14
2) 中古機器売買	14
3) e-Leasing Direct (資産管理サービス)	15
4) ESCO事業 (環境関連サービス)	16
5) 排出権関連ビジネス (環境関連サービス)	17
6) 不動産関連ファイナンス (不動産関連サービス)	18
7) シンフォニー (不動産関連サービス)	19
8) PFI事業	20
9) オートリース	21
10) ファクタリング	21
8. 2012年3月期業績予想	22
9. 中期経営計画“ Vision 2013 ”	23

1. 2012年3月期第2四半期 決算概要

(金額単位:億円)

	2012/3期 第2四半期	前年同期比 (増減率)	2011/3期 第2四半期
売上高	3,612	-1.2%	3,654
売上総利益	583	-2.2%	596
営業利益	307	+11.1%	277
経常利益	333	+16.4%	286
純利益	184	+36.7%	134
契約実行高	5,952	+1.3%	5,877

(金額単位:億円)

	2012/3期 第2四半期	前期末比 (増減率)	2011/3期末
純資産	4,065	+4.3%	3,898
総資産	36,680	-1.4%	37,211

国内経済は、東日本大震災の影響による落ち込みから回復基調にあり、生産活動を中心に持ち直しの動きが見られるようになりました。一方で、円高の影響や、欧州における財政問題など世界経済の変調を要因として、景気回復の鈍化が懸念されるなど、依然として不透明な状況が続いております。

このような中、当社では本年4月よりスタートさせた中期経営計画「**Vision2013**」に基づき、持続的成長を牽引するための各種戦略・施策を着実に実行に移してまいりました。

当第2四半期の売上高は、前年同期比1.2%減少の3,612億円となりました。

低利で安定した資金調達を実施しつつ収益性の向上を念頭に置いた営業を展開したこと、与信審査体制を強化し、貸倒関連費用の抑制に努めてきたことなどにより、営業利益は前年同期比11.1%増加の307億円、経常利益は前年同期比16.4%増加の333億円となりました。純利益は前年同期比36.7%増加の184億円を計上し、半期ベースにおいて過去最高益となりました。

以上のような当第2四半期決算の実績と今後の見通しを踏まえて、通期の業績予想を上方修正いたしました(詳細は22ページに記載)。

また、契約実行高は、付加価値型の商品サービスの提供等、お客様ニーズにあわせた提案型の営業展開を行ったことにより、前年同期比1.3%増加の5,952億円となりました。

2. 連結決算主要項目の推移

(1) 損益計算書 関連項目

(金額単位: 百万円)

	08/3第2四半期	09/3第2四半期	10/3第2四半期	11/3第2四半期	12/3第2四半期
	07年4月～9月	08年4月～9月	09年4月～9月	10年4月～9月	11年4月～9月
1 売上高	496,999	425,565	372,573	365,481	361,248
	+95.1%	-14.4%	-12.5%	-1.9%	-1.2%
2 賃貸料収入	384,060	319,156	279,495	281,303	280,055
	+114.8%	-16.9%	-12.4%	+0.6%	-0.4%
3 割賦売上高	83,870	73,464	61,491	51,339	46,633
	+42.0%	-12.4%	-16.3%	-16.5%	-9.2%
4 営業貸付収入	17,690	18,735	19,386	18,665	17,682
	+112.1%	+5.9%	+3.5%	-3.7%	-5.3%
5 その他の売上高	11,377	14,208	12,201	14,172	16,876
	+33.6%	+24.9%	-14.1%	+16.2%	+19.1%
6 売上原価	443,970	371,155	319,024	305,813	302,900
	+95.3%	-16.4%	-14.0%	-4.1%	-1.0%
7 売上原価 / 売上高 (売上高売上原価率)	89.3%	87.2%	85.6%	83.7%	83.8%
	+0.1P	-2.1P	-1.6P	-1.9P	+0.1P
8 賃貸原価	342,491	281,203	242,847	240,267	239,893
	+114.6%	-17.9%	-13.6%	-1.1%	-0.2%
9 割賦原価	77,852	68,264	56,229	46,691	42,356
	+39.9%	-12.3%	-17.6%	-17.0%	-9.3%
10 資金原価	16,806	16,558	14,545	10,915	9,183
	+185.9%	-1.5%	-12.2%	-25.0%	-15.9%
11 その他の売上原価	6,820	5,128	5,401	7,939	11,466
	+11.2%	-24.8%	+5.3%	+47.0%	+44.4%
12 売上総利益	53,028	54,410	53,549	59,667	58,348
	+93.3%	+2.6%	-1.6%	+11.4%	-2.2%
13 売上総利益 / 売上高 (売上高売上総利益率)	10.7%	12.8%	14.4%	16.3%	16.2%
	-0.1P	+2.1P	+1.6P	+1.9P	-0.1P
14 従業員数	2,249	2,330	2,256	2,268	2,288
15 一人当たり売上総利益 (年換算...×2)	47.2	46.7	47.5	52.6	51.0
	-7.9%	-1.0%	1.6%	10.8%	-3.1%
16 販売費及び一般管理費	26,785	33,240	40,095	31,960	27,560
	+146.1%	+24.1%	+20.6%	-20.3%	-13.8%
17 人件費	10,784	10,701	10,582	10,996	11,332
	+110.6%	-0.8%	-1.1%	+3.9%	+3.1%
18 物件費	14,056	12,046	11,588	11,945	12,356
	+168.4%	-14.3%	-3.8%	+3.1%	+3.4%
19 貸倒関連費用 (一般貸倒引当金を含む)	1,945	10,493	17,925	9,019	3,871
	+269.5%	+439.5%	+70.8%	-49.7%	-57.1%
20 OHR	46.8%	41.8%	41.4%	38.4%	40.6%
	+9.0P	-5.0P	-0.4P	-3.0P	+2.1P
21 営業利益	26,242	21,170	13,453	27,707	30,787
	+58.6%	-19.3%	-36.5%	+105.9%	+11.1%
22 営業利益 / 売上高 (売上高営業利益率)	5.3%	5.0%	3.6%	7.6%	8.5%
	-1.2P	-0.3P	-1.4P	+4.0P	+0.9P
23 経常利益	26,511	21,268	14,200	28,626	33,332
	+57.4%	-19.8%	-33.2%	+101.6%	+16.4%
24 特別利益	1,874	926	7,934	925	60
	+28.5%	-50.6%	+756.5%	-88.3%	-93.4%
25 特別損失	1,008	5,591	1,484	3,799	305
	+2,420.0%	+454.4%	-73.5%	+155.9%	-92.0%
26 純利益	15,323	9,114	10,567	13,496	18,443
	+38.0%	-40.5%	+15.9%	+27.7%	+36.7%

※下段の%、P(ポイント)は前年同期比を掲載

1. その他の売上高について(5行目)

主に物件販売による収入、有価証券の収入、各種手数料収入などが含まれています。

2. その他の売上原価について(11行目)

物件販売における仕入コストや各種支払手数料が含まれています。

3. 貸倒関連費用(19行目)

貸倒関連費用の内訳は以下の通りです。

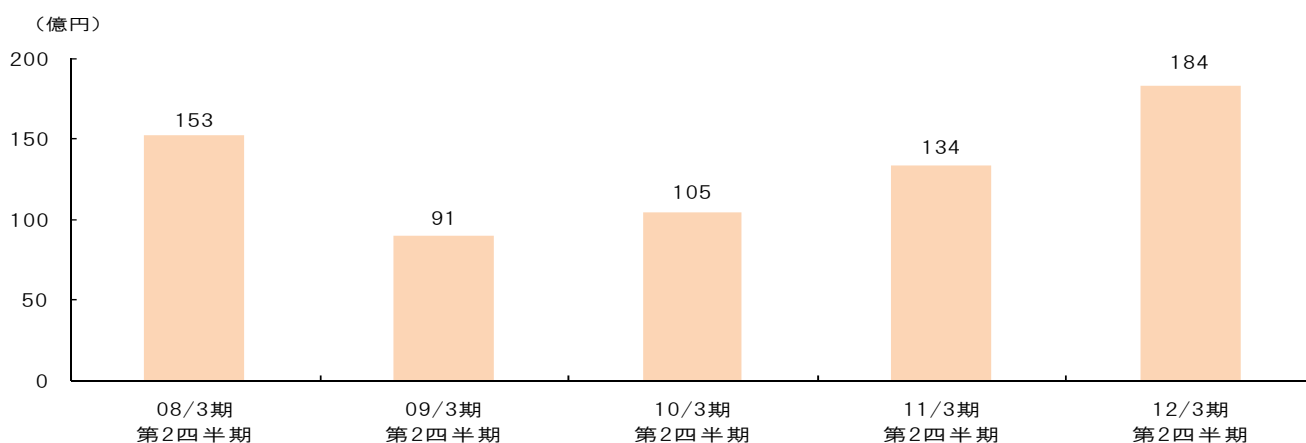
(金額単位:億円)

	個別引当金	一般引当金	合計
単体	41	0	41
連結子会社	30	-33	-3
合計	71	-33	38

4. 特別損失(25行目)

投資有価証券評価損を約3億円計上しています。

5. 純利益の推移(26行目)



6. グループ会社数

当期末時点における連結子会社数、持分法適用関連会社数は以下の通りです。

連結子会社数	持分法適用関連会社数
88	5

(2) 貸借対照表 関連項目

(金額単位:百万円)

	08/3期	09/3期	10/3期	11/3期	12/3期第2四半期
	08/3末	09/3末	10/3末	11/3末	11/9末
1 純資産合計	312,352	342,633	366,891	389,802	406,521
	+102.5%	+9.7%	+7.1%	+6.2%	+4.3%
2 総資産額	3,965,891	3,909,077	3,885,161	3,721,136	3,668,019
	+66.6%	-1.4%	-0.6%	-4.2%	-1.4%
3 営業資産残高	3,630,737	3,497,071	3,517,982	3,393,547	3,353,647
	+66.1%	-3.7%	+0.6%	-3.5%	-1.2%
4 内貸貸事業	1,794,936	1,565,325	1,677,155	1,673,572	1,669,224
	+118.8%	-12.8%	+7.1%	-0.2%	-0.3%
5 内割賦販売事業	431,143	368,467	297,051	242,147	224,939
	+49.6%	-14.5%	-19.4%	-18.5%	-7.1%
6 内貸付事業	1,145,939	1,227,716	1,222,770	1,174,661	1,173,291
	+27.1%	+7.1%	-0.4%	-3.9%	-0.1%
7 内その他の事業	258,719	335,562	321,005	303,167	286,192
	+47.6%	+29.7%	-4.3%	-5.6%	-5.6%
8 破産更生債権等	6,382	47,983	46,351	40,921	37,027
	+42.6%	+651.8%	-3.4%	-11.7%	-9.5%
9 貸倒引当金	2,014	3,694	8,487	9,335	11,662
10 ネット破産更生債権等	4,368	44,288	37,863	31,586	25,365
	+27.3%	+913.9%	-14.5%	-16.6%	-19.7%
11 自己資本比率	7.5%	8.4%	9.1%	10.0%	10.6%
	+1.3P	+0.9P	+0.7P	+0.9P	+0.6P
12 ROE…株主資本純利益率	13.6%	2.3%	6.1%	7.1%	9.7%
	-2.3P	-11.3P	+3.8P	+1.0P	+2.6P
13 ROA…総資産純利益率	1.0%	0.2%	0.5%	0.7%	1.0%
	+0.0P	-0.8P	+0.3P	+0.2P	+0.3P
14 有利子負債	3,314,673	3,190,431	3,148,926	2,961,470	2,905,128
	+63.0%	-3.7%	-1.3%	-6.0%	-1.9%
15 間接調達	1,765,716	1,842,291	1,740,993	1,614,526	1,600,674
	+50.0%	+4.3%	-5.5%	-7.3%	-0.9%
16 直接調達	1,548,957	1,348,139	1,407,932	1,346,944	1,304,454
	+80.9%	-13.0%	+4.4%	-4.3%	-3.2%
17 内CP	900,800	892,900	872,400	866,000	829,400
	+63.1%	-0.9%	-2.3%	-0.7%	-4.2%
18 内リース債権流動化	288,108	162,959	152,256	101,944	93,646
	+357.3%	-43.4%	-6.6%	-33.0%	-8.1%
19 内社債	360,049	292,280	383,276	379,000	381,408
	+49.3%	-18.8%	+31.1%	-1.1%	+0.6%
20 直接調達比率	46.7%	42.3%	44.7%	45.5%	44.9%
	+4.6P	-4.4P	+2.4P	+0.8P	-0.6P

※下段の%、P(ポイント)は前期末比を掲載

1. 内賃貸事業について(4行目)

流動資産の「リース債権およびリース投資資産」と有形固定資産及び無形固定資産の「賃貸資産」の合計を表示しています。

2. 内割賦販売事業(5行目)

割賦債権から割賦未実現利益を控除した額を表示しています。

3. 内貸付事業の内訳(6行目)

(金額単位:億円)

	営業貸付金			その他営業貸付金 ^{※3}	合計
	一般貸付金	リースみなし取引等 ^{※1}	子会社宛貸付金 ^{※2}		
08/3月末	9,398	1,161	86	814	11,459
09/3月末	9,977	1,368	208	724	12,277
10/3月末	9,725	1,643	96	763	12,227
11/3月末	9,361	1,630	94	660	11,746
11/9月末	9,296	1,602	111	723	11,732

※1:リースみなし取引とは、お客様との間ではリース契約取引ですが、会計上は貸付金として処理している取引です。

※2:主に非連結子会社向け貸付金です。

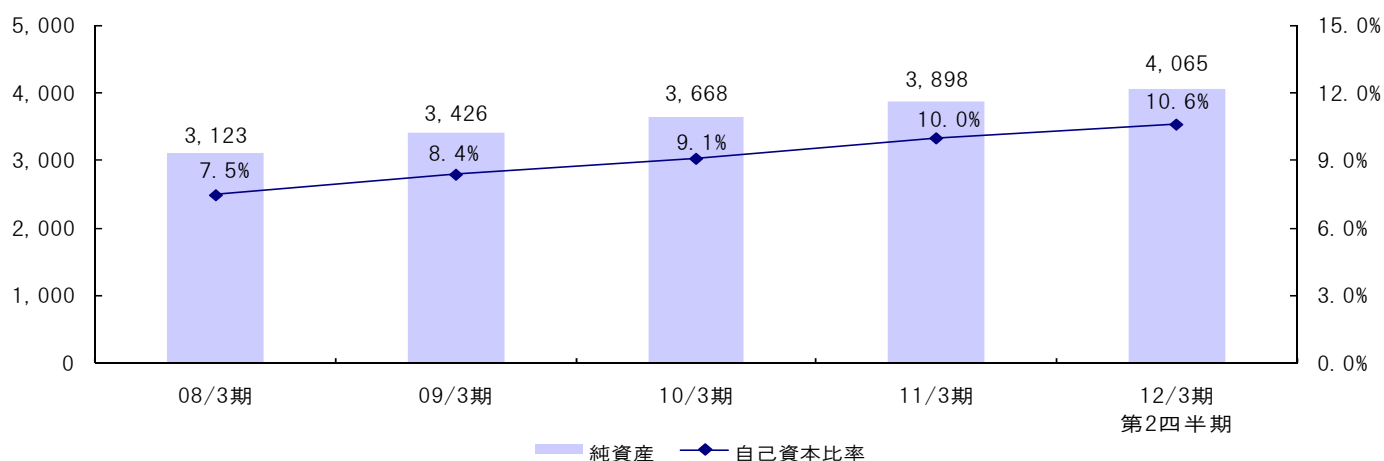
※3:主にファクタリング債権です。

4. 内その他の事業(7行目)

営業有価証券、営業出資金などが含まれています。

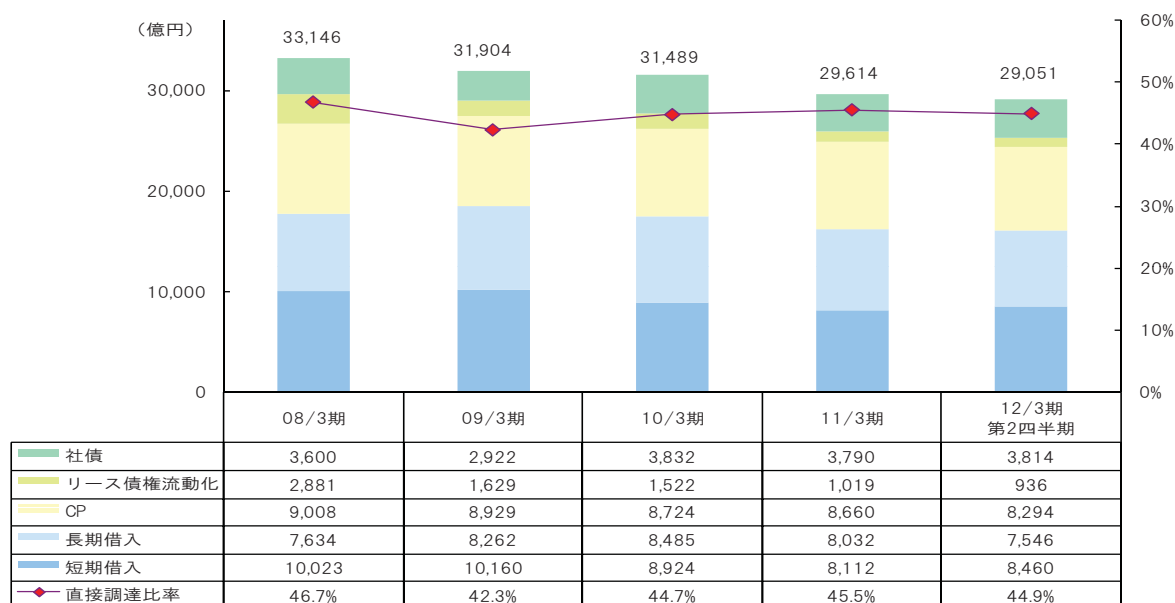
5. 純資産と自己資本比率の推移(1、11行目)

(億円)



3. 資金調達状況

(1) 調達構造



連結ベースの有利子負債残高は2兆9,051億円となり、前期末比563億円減少いたしました。金利変動リスクに対しては、主に金利スワップによるヘッジオペレーションを行っています。当第2四半期末の金利スワップの想定元本(固定化スワップ)は3,180億円です。

(2) 最近の社債の発行状況

発行時期	金額	期間	利率 (年)	スプレッド	
				スワップ比	国債比
2009年6月	450億円	3年	1.280%	+50bp	-
2009年9月	250億円	4年	1.110%	+33bp	-
2009年12月	300億円	3年	0.820%	+16bp	-
2010年3月	200億円	4年	0.720%	+6bp	-
2010年6月	250億円	5年	0.687%	-3bp	+23bp
2010年9月	200億円	5年	0.532%	-3bp	+23bp
2011年1月	200億円	5年	0.634%	-3bp	+18bp
2011年4月	300億円	5年	0.796%	+8.5bp	+27bp
2011年7月	200億円	5年	0.567%	-1bp	+16bp

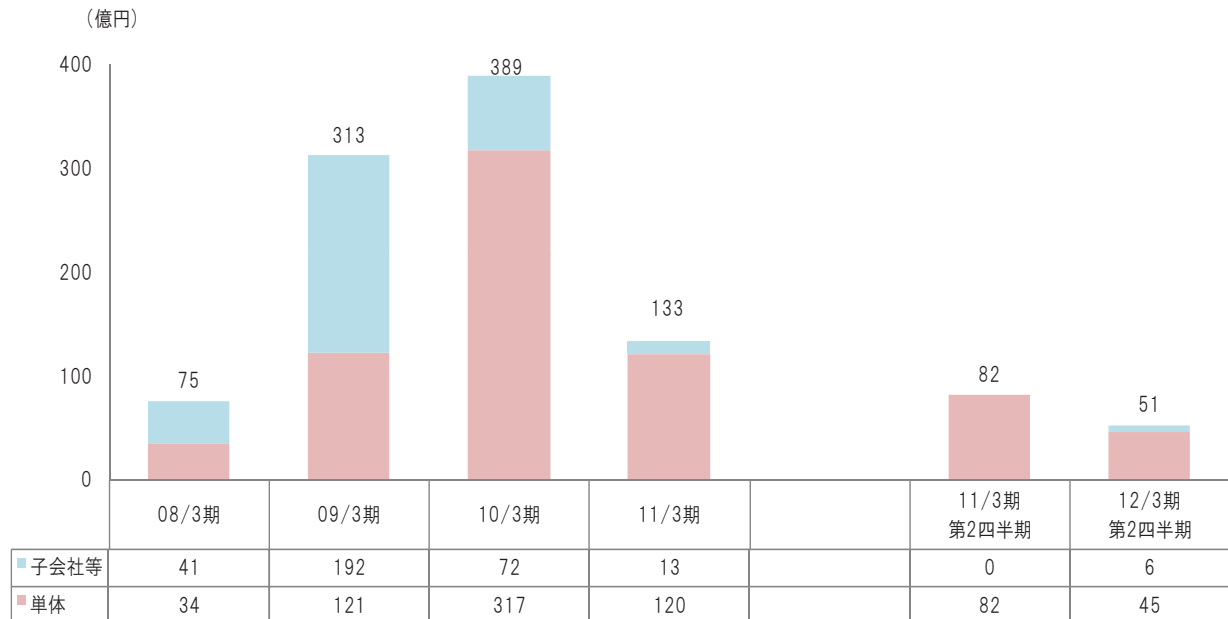
※上記「スワップ比」は、発行した社債の期間に対応するスワップレートと社債利率の差を表示。

(3) 外部格付について

格付機関		2011/11/8現在
JCR (日本格付研究所)	(長期)	AA-
	(短期)	J-1+
R&I (格付投資情報センター)	(長期)	A+
	(短期)	a-1
Moody's	(長期)	A2
	(短期)	P-1

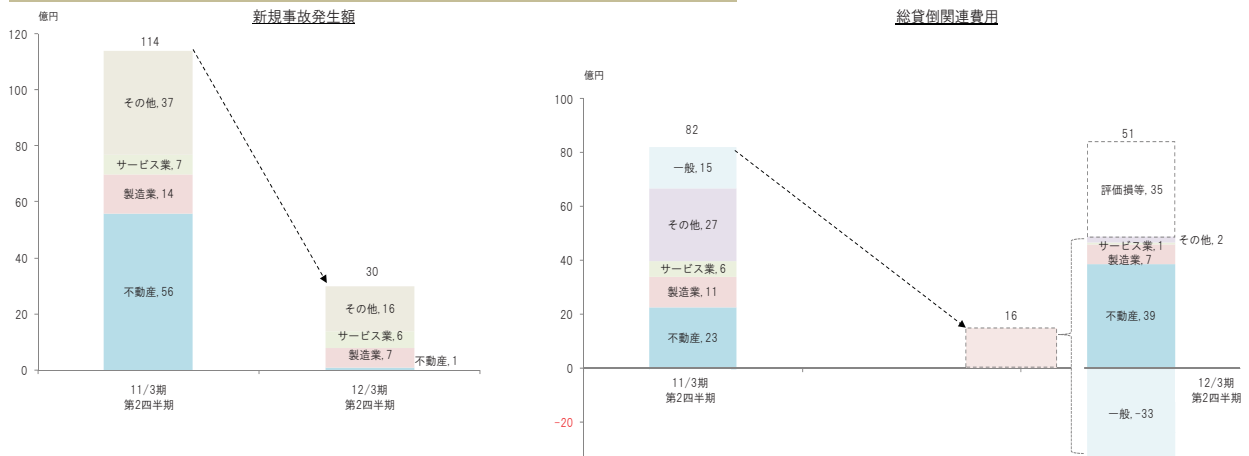
4. 貸倒関連費用等

(1) 総貸倒関連費用の推移



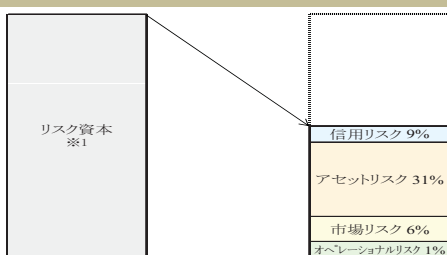
上記金額は、連結ベースの総貸倒関連費用です。当該金額には、売上原価処理分、販売費および一般管理費計上分、営業外損益、特別損益計上分が含まれています。

(2) 新規事故発生額と総貸倒関連費用の前期比較(業種別)



新規事故発生額は前年同期比73.7%減少の30億円となりました。総貸倒関連費用は、評価損等35億円の特殊要因があったものの、新規事故発生の減少などにより前年同期比37.8%減少の51億円となりました。

(3) 統合リスク管理



※1 リスク資本:株主資本へのおれん
 ※2 リスク資本に対する各リスク量の比率

様々なリスクを計量化することにより、統合的なリスク管理を行っています。左表は、2011年9月末時点の各種リスクについて、最大損失額をVaR (Value at Risk) 等で算出したリスク量です。信用・市場・オペレーショナルなどのリスクに留まらず、アセットリスクまで算出するなど、厳格なリスクマネジメントを行っています。

5. 主要連結構成会社の決算概要

金額単位:百万円

損益項目	三菱UFJリース(MUL) (単体)		日医リース(日医) MUL持分割合:100%		デー・エフ・エル・リース(DFL) MUL持分割合:95%	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	244,150	-3.2%	17,572	+7.7%	9,016	-9.0%
売上総利益	38,359	-5.0%	1,936	+4.9%	1,091	-7.1%
営業利益	19,654	+8.7%	950	+16.0%	1,017	+82.3%
経常利益	20,926	+8.7%	985	+18.3%	1,061	+87.9%
純利益	11,494	+48.8%	568	+17.1%	651	+36.8%

資産項目	金額	前期末比	金額	前期末比	金額	前期末比
営業資産	2,656,546	-2.8%	89,646	+0.7%	44,844	-1.2%
総資産	2,955,259	-3.1%	92,463	+1.1%	46,396	-0.7%
純資産	348,275	+2.4%	9,494	+6.4%	7,374	+9.7%

金額単位:百万円

損益項目	神鋼リース(神鋼) MUL持分割合:80%		カシオリース(CL) MUL持分割合:80%		ひろぎんリース(HL) MUL持分割合:80%	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	13,579	-2.7%	8,668	-5.7%	10,433	-6.2%
売上総利益	1,209	+4.9%	910	-0.2%	1,261	+0.2%
営業利益	587	+26.7%	553	-10.2%	1,061	+30.4%
経常利益	623	+29.0%	579	-6.0%	1,240	+53.0%
純利益	323	+18.5%	340	-11.2%	732	+40.8%

資産項目	金額	前期末比	金額	前期末比	金額	前期末比
営業資産	99,218	-2.8%	32,321	-8.0%	54,957	-6.2%
総資産	103,456	-2.9%	33,258	-7.4%	57,922	-5.7%
純資産	5,880	+5.0%	10,257	+3.4%	7,812	+10.3%

金額単位:百万円

損益項目	首都圏リース(首都圏) MUL持分割合:76%		中京総合リース(中京) MUL持分割合:70%		MMCダイヤモンドファイナンス(MDF) MUL持分割合:50%	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	11,928	-2.1%	3,622	-4.4%	9,036	+6.3%
売上総利益	1,719	-7.3%	420	-10.5%	3,935	+16.7%
営業利益	940	-20.7%	101	+339.9%	894	+22.2%
経常利益	1,012	-16.4%	140	+419.8%	1,044	+42.1%
純利益	593	-21.9%	82	+7.9%	606	+17.7%

資産項目	金額	前期末比	金額	前期末比	金額	前期末比
営業資産	89,101	-2.1%	15,446	-5.0%	217,506	+4.7%
総資産	92,292	-1.8%	16,646	-4.3%	232,069	+5.3%
純資産	9,778	+5.6%	4,694	+1.7%	12,021	+5.3%

金額単位:百万円

損益項目	ダイヤモンドレンタルシステム(DRS) MUL持分割合:100%		ダイヤモンドアセットファイナンス(DAF) MUL持分割合:100%		御幸ビルディング(御幸ビル) MUL持分割合:98%	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	12,227	-0.3%	11,572	+50.7%	3,064	-2.1%
売上総利益	1,205	-3.7%	1,759	-25.8%	1,731	+8.0%
営業利益	306	-4.9%	1,780	+135.7%	1,462	+7.4%
経常利益	294	-7.9%	1,892	+149.0%	1,199	+7.7%
純利益	164	-11.2%	1,865	+91.8%	693	+7.8%

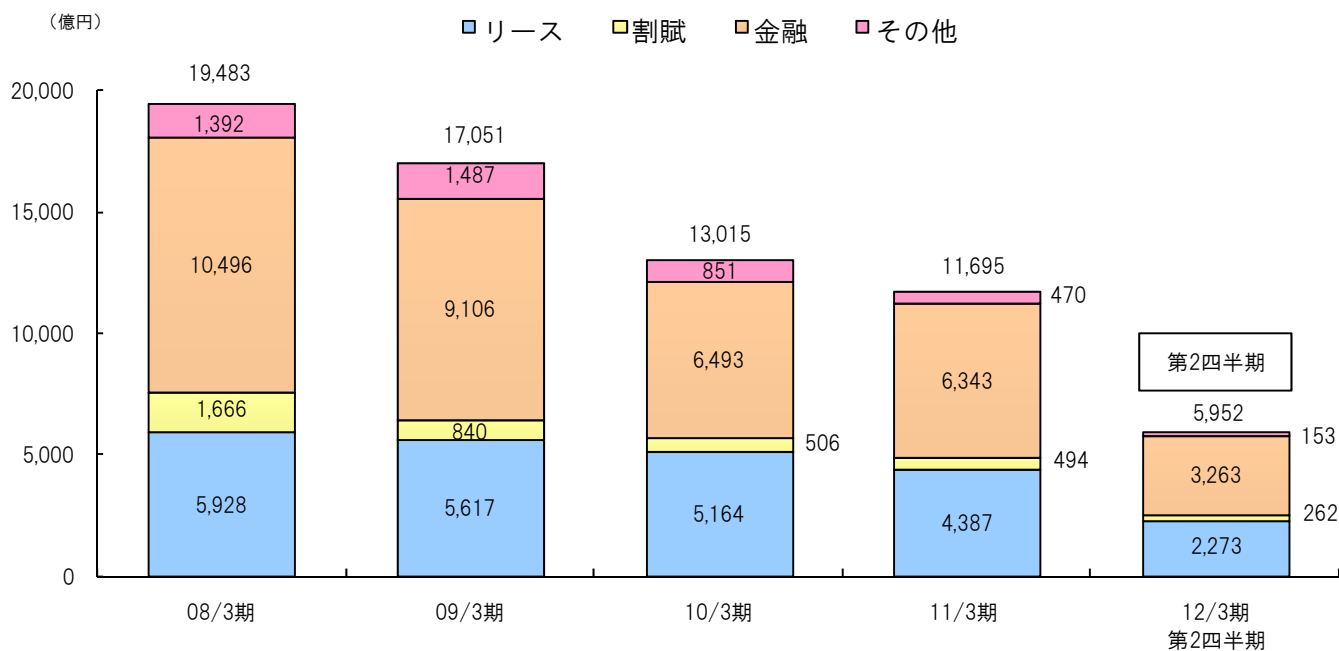
資産項目	金額	前期末比	金額	前期末比	金額	前期末比
営業資産	48,923	-0.0%	164,402	-4.5%	51,988	-0.5%
総資産	51,358	-0.7%	175,710	-2.9%	57,718	-3.1%
純資産	3,768	+4.6%	14,430	+14.8%	18,352	+3.7%

6. 営業状況(契約実行高)

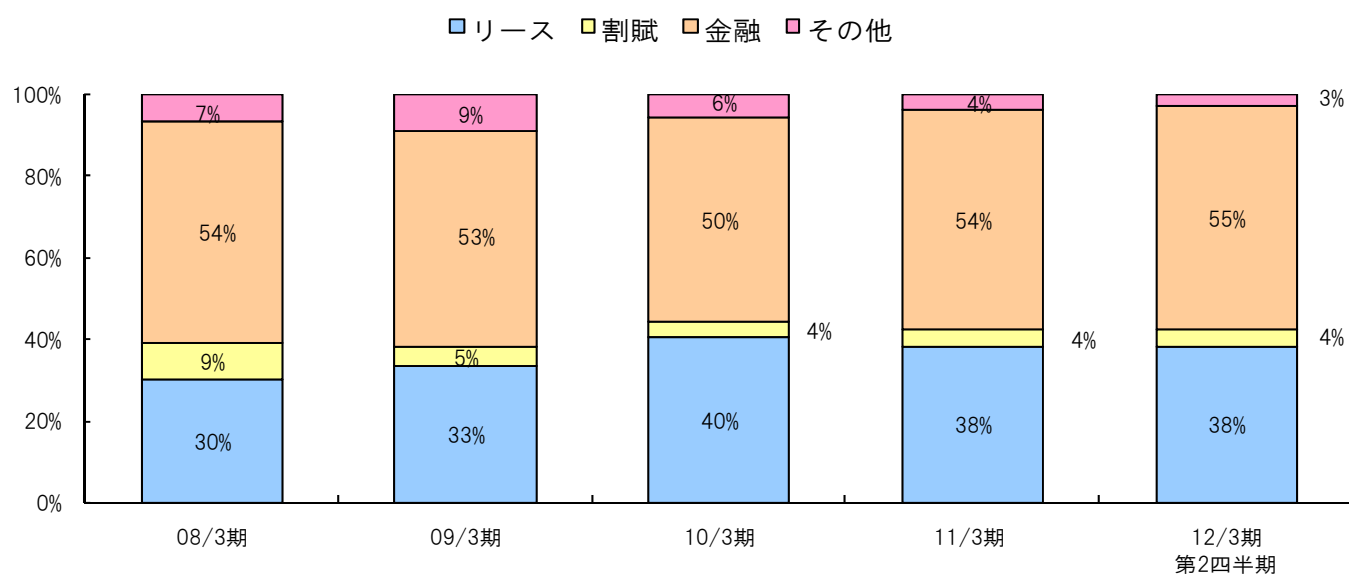
2012年3月期第2四半期における契約実行高は、前年同期比1.3%増加の5,952億円となりました。取引種類別の内訳は、リース取引が前年同期比3.7%減少、割賦取引が前年同期比14.8%増加、金融・その他取引が前年同期比3.9%増加となりました。

取引種類別構成比は、リース38%、割賦4%、金融・その他58%となっております。

取引種類別契約実行高(元本ベース)の推移



取引種類別契約実行高の構成比



リース契約実行高 機種別内訳

(単位:億円)

	2011/3期 第2四半期	2012/3期 第2四半期	前年同期比
情報関連・事務用機器	553	637	+15.1%
産業・工作機械	649	537	-17.1%
土木建設機械	53	64	+20.3%
輸送用機械	193	176	-8.7%
医療機器	216	217	+0.2%
商業用およびサービス機器	261	281	+7.4%
その他	432	357	-17.2%
合計	2,361	2,273	-3.7%

割賦契約実行高 機種別内訳

(単位:億円)

	2011/3期 第2四半期	2012/3期 第2四半期	前年同期比
情報関連・事務用機器	24	11	-55.5%
産業・工作機械	20	36	+75.4%
土木建設機械	31	47	+50.1%
輸送用機械	15	12	-15.6%
医療機器	26	31	+19.5%
商業用およびサービス機器	70	64	-7.9%
その他	38	57	+48.0%
合計	228	262	+14.8%

金融・その他契約実行高

(単位:億円)

	2011/3期 第2四半期	2012/3期 第2四半期	前年同期比
ファクタリング	1,528	1,377	-9.9%
不動産関連	803	310	-61.4%
その他融資等	955	1,729	+81.0%
合計	3,287	3,417	+3.9%

契約実行高 合計(リース、割賦、金融、その他)

(単位:億円)

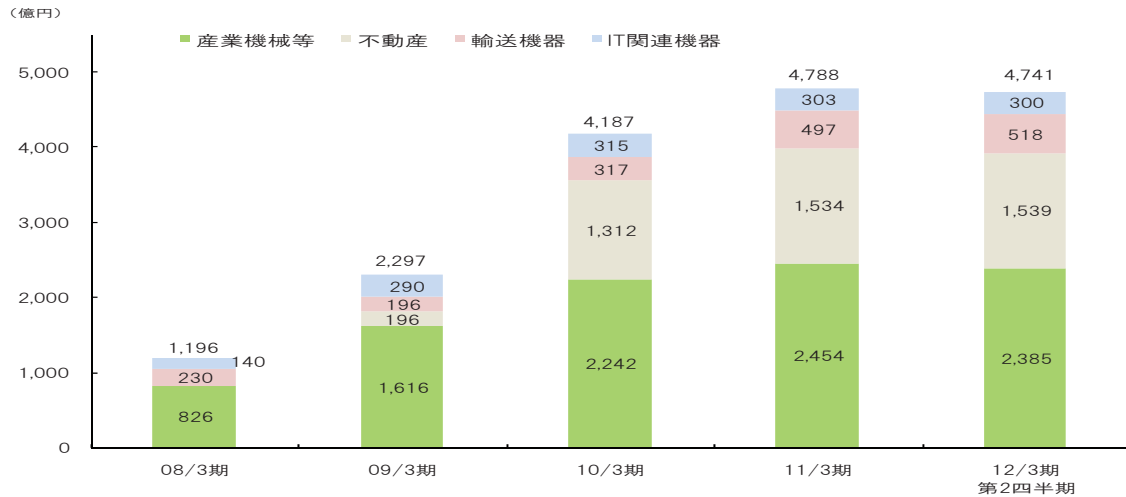
	2011/3期 第2四半期	2012/3期 第2四半期	前年同期比
合計	5,877	5,952	+1.3%

7. 営業の取組み

1) オペレーティングリース

物件価値に着目し、リース期間満了後の残価を設定しリース料を算定するオペレーティングリース取引では、産業工作機械や輸送機器、PCレンタル等、幅広い物件を取り扱っています。オペレーティングリースは、お客様のご希望に応じたリース期間の設定が可能のため、生産スケジュールに応じた機動的な設備導入が可能です。当社は業界で早くからオペレーティングリースを展開し、サービスの向上を図っております。

オペレーティングリース残高推移



2) 中古機器売買

リースビジネスで培った経験とノウハウを活用して、半導体製造設備や、工作機械、医療機器、情報関連機器など、多種多様な中古機器の売買業務を展開しています。タイムリーに設備を導入したい、安全な中古機器を導入したい、というお客様のニーズにお応えしています。

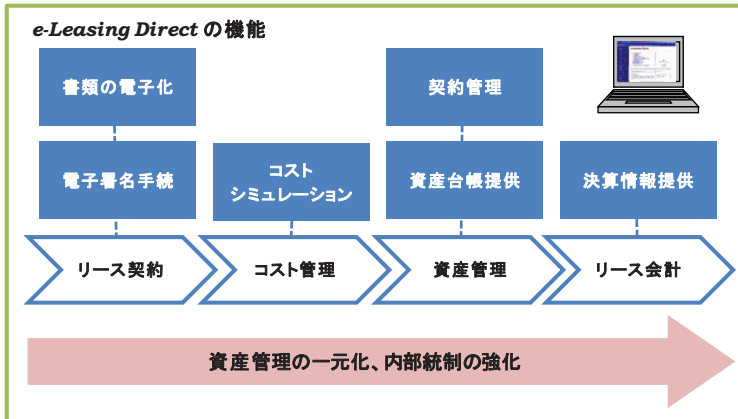
三菱UFJリースのグループネットワーク

ユーマシン		中古工作機械・産業機械の仕入販売を行う専門商社。国内3ヶ所に自社倉庫を有し、年間約5千台の機械を取り扱っています。
エム・キャスト		中古医療機器の販売・買取を行う業界トップクラスの専門商社。業界で初めてISO9001を取得するなど、徹底した品質管理を行い、安全性の高い中古医療機器を提供しています。
ダイヤモンド・イクイップメント		中古半導体製造装置の販売と買取を行う専門商社。ワールドワイドのネットワークで、国内外のお客様に装置の売買情報を提供しています。
MULエコビジネス		リースアップしたPCやOA機器など年間約2万台を仕入れ、データ消去などの情報漏洩対策を施した上で、リユース・リサイクルを行っています。

3) e-Leasing Direct (資産管理サービス)

業界に先駆けて提供しているWebリース取引サービス。当社独自のサービス「**e-Leasing Direct**」では、契約から満了までの一連の手続きをWeb上で行うことができ、リース会計基準に対応した会計関連情報を迅速かつ無償でお客様にご提供いたします。**e-Leasing Direct**では、お客様が使用されている資産データと、リース契約情報を紐付けることができますので、資産管理やコスト把握にもご活用頂けます。さらに、お客様が社内で行うリース契約手続きにおいて、**e-Leasing Direct**が持つ電子承認機能をご活用頂くことで、内部統制管理の強化にもお役立て頂けます。

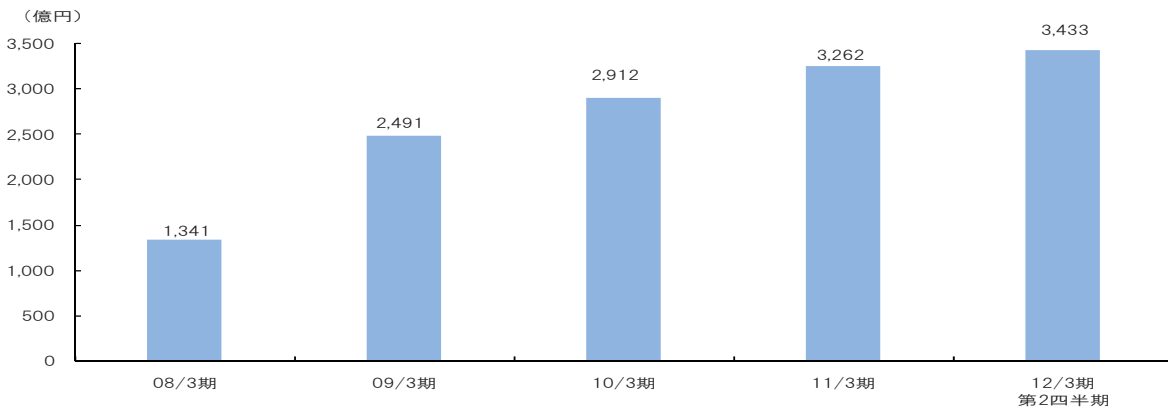
主な機能



e-Leasing Direct の画面イメージ



e-Leasing Direct の残高推移



主な導入実績事例

業種	代表的な物件
多店舗展開する流通・飲食業	POSレジ 現金自動預け払い機
鉄道会社	自動改札機
飲料メーカー	自動販売機
製造業	金型
レンタル会社	レンタル物件



自動改札機

主なニーズ
✓資産管理業務のアウトソーシング
✓経理処理の簡素化
✓J-SOX・内部統制の強化



POSレジ



自動販売機

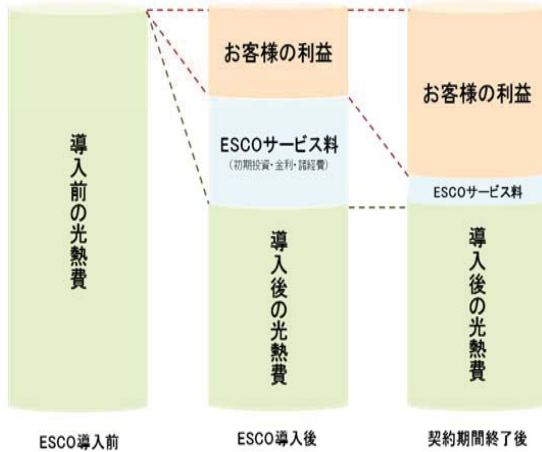


証明写真機

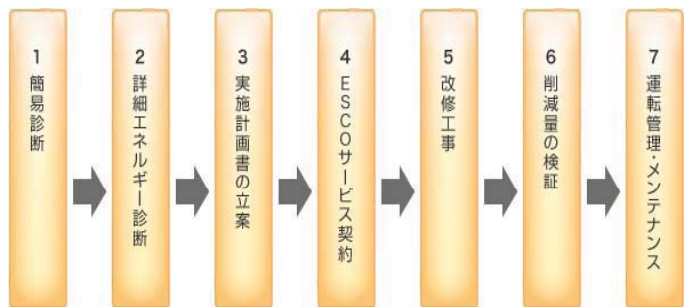
4)ESCO (Energy Service Company) 事業(環境関連サービス)

ビルや工場、ホテル、病院などの施設に対して、省エネルギー化のプランニング、改修工事、ファイナンス提供、エネルギー削減の効果保証などパッケージでサポートするESCO事業において、当社は豊富な実績とノウハウにより、お客様に合ったサービスを提供しています。これまでの取扱件数は累計で388件と、全てのESCO事業者の中でもトップクラスの実績となっています。

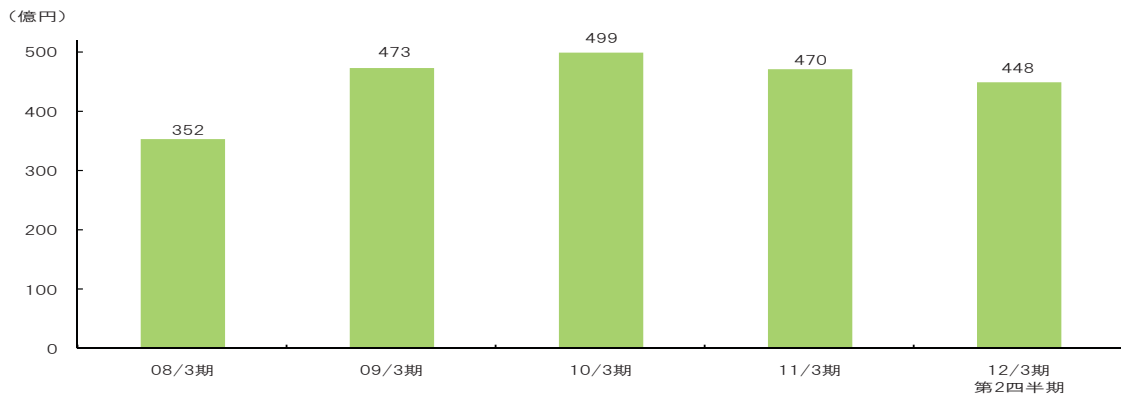
ESCOの導入メリット



業務フロー



ESCO事業の残高推移



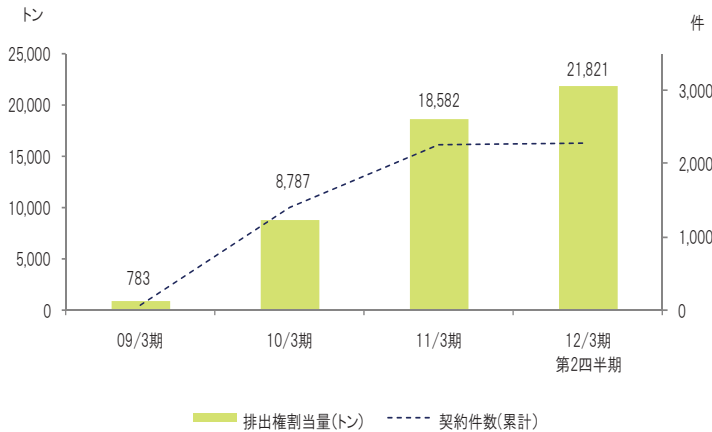
ESCOの導入事例



5) 排出権関連ビジネス(環境関連サービス)

地球温暖化問題へのソリューションとして、リースする物件に排出権を割当て、リース物件から生ずるCO2を相殺する「カーボンナチュラルリース」や、お客様に代わって、排出権の購入から償却に至るまでの手続きを受託する「オフセットパートナーサービス」など排出権関連サービスをご提供しております。また、省エネ設備の導入によるCO2排出削減分から排出権を創出するサービスを行うなど、排出権に関する幅広いサービスをご提供しております。2011年9月末時点において、契約件数は累計で2,271件、排出権割当量は21,821トンの実績となっております。

契約件数と排出権割当量の推移(累計)



主に取り扱っている排出権

- CER**
京都議定書が採択した京都メカニズムのうち、クリーン開発メカニズムに基づいて発行されるクレジット
- J-VER**
オフセット・クレジット制度に基づいて発行される国内における自主的な温室効果ガス排出削減・吸収プロジェクトから生じたクレジット
- 国内クレジット**
中小企業などが大企業の資金や技術の提供を受けて温室効果ガスの排出削減事業を行うことで削減した温室効果ガス排出削減分をクレジット化したもの



排出権の活用事例

サービス利用オフセット



商品の製造・使用・廃棄などの過程において発生する温室効果ガス排出量の全部または一部をカーボンオフセットすることで、環境に配慮したエコ商品として販売いただけます。



自己活動オフセット支援

お客さまが販売される商品の購入者が、一般生活で排出される温室効果ガスの排出量をカーボンオフセットすることで、商品購入者の環境貢献活動に寄与することができます。



会議・イベント開催オフセット



スポーツ大会・コンサート・会議などを開催する際の照明や空調の利用、イベント参加者の移動によって発生する温室効果ガス排出量をカーボンオフセットすることで、環境に配慮したエコイベントとしてPRが可能です。



自己活動オフセット

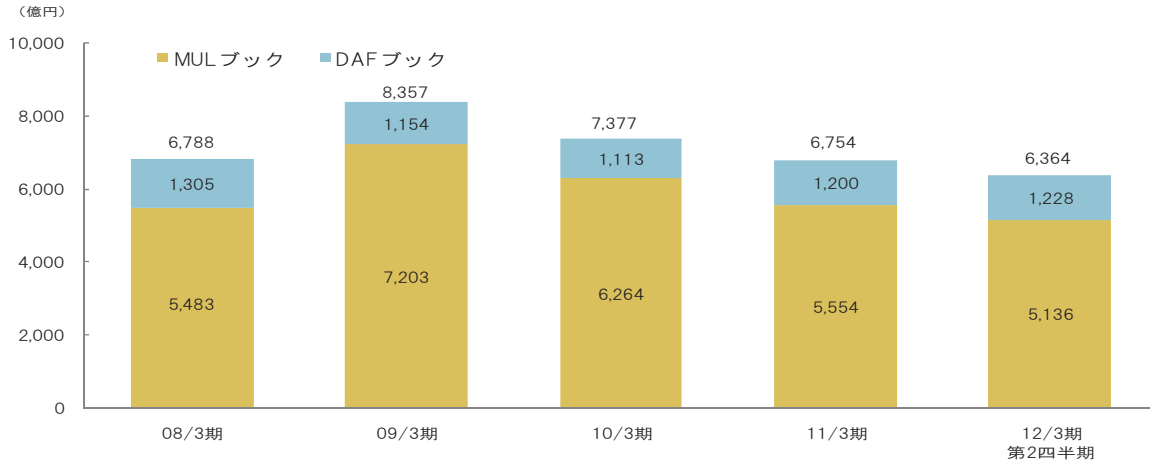
工場等の照明、空調などから発生する温室効果ガス排出量をカーボンオフセットすることで、自社の環境貢献活動に寄与することができます。



6)不動産関連ファイナンス(不動産関連サービス)

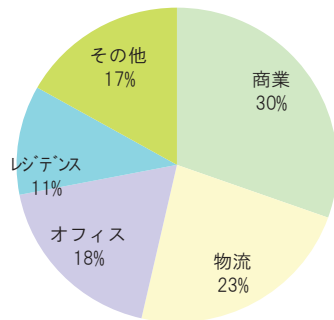
主に商業用、物流用、オフィス用を対象とした不動産関連ファイナンス。対象不動産からの収益力を評価して実行するノンリコースローンを中心に、様々なスキーム、案件を取組んでいます。不動産のノンリコースローンでは、厳格なリスク管理の下、主として信用力の高い大手不動産会社等が組成する案件を選別して取組んでいます。また、グループ会社のダイヤモンドアセットファイナンス(DAF)では、プロジェクトファイナンスとオーナーローンを取り扱うなど、不動産関連におけるお客様の様々なニーズにお応えしています。

不動産関連ファイナンスの残高推移

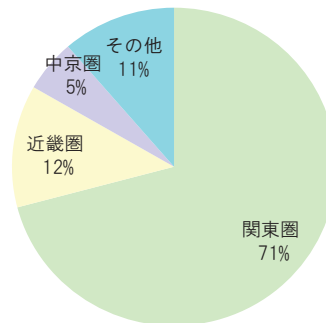


MULブック案件内訳とLTV分布(2011年9月末時点)

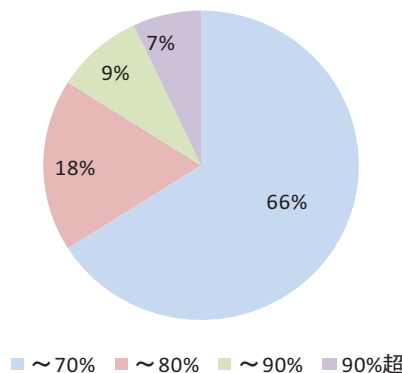
物件タイプ別



地域別



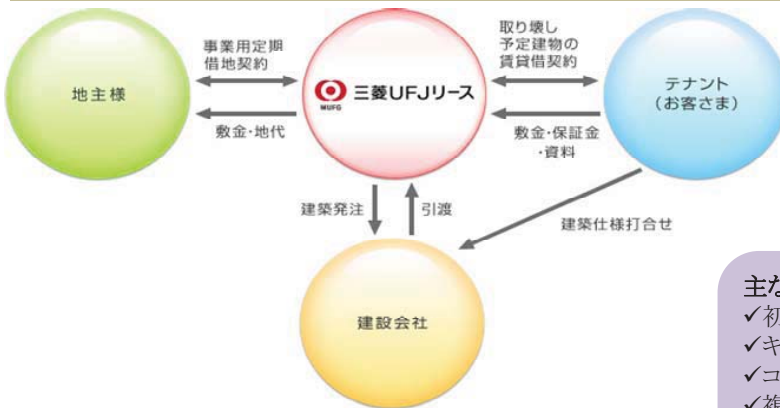
LTV分布



7) シンフォニー(不動産関連サービス)

事業用定期借地権を利用した建物賃貸借取引「シンフォニー」において、当社は大規模なショッピングモールや複合型商業施設を始め、物流施設やショールーム、飲食チェーン店など様々な建物を取組んでおります。テナント、デベロッパーの皆様にとっては、少額の初期投資でご希望の建物を機動的に展開でき、また、地主様にとっては土地の有効活用が出来るということで、当社のシンフォニーはご好評頂いております。

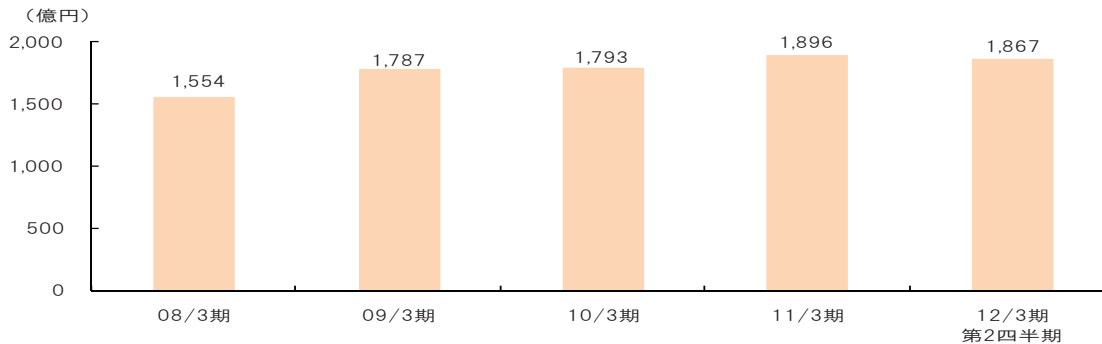
シンフォニーのスキーム









主なメリット

- ✓初期投資が軽減
- ✓キャッシュフロー負担の軽減
- ✓コスト把握が容易
- ✓複数の土地オーナーとの交渉が容易
- ✓建物の所有に伴う管理事務の簡素化

シンフォニーの残高推移



シンフォニーの導入事例

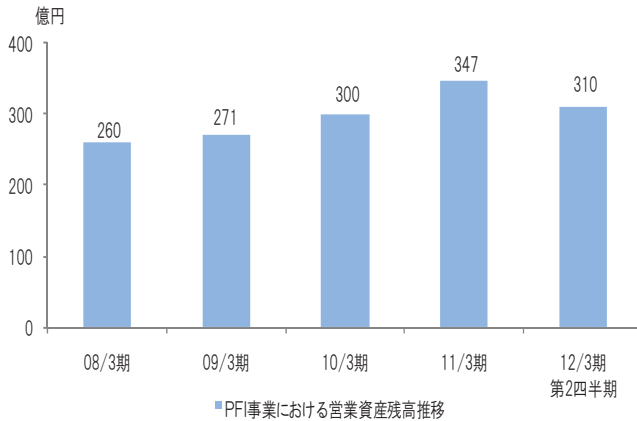
	物流倉庫 原材料や製品の在庫拠点、供給拠点として活用される物流倉庫の設置にシンフォニーが利用されています。		大型開発プロジェクト 工場跡地をショッピングセンターとして開発したプロジェクトにおいてもシンフォニーが活用されています。
ショッピングモール 複数の小売店舗が集まった商業施設であるショッピングモールにおいて、シンフォニーが利用されています。		大型家電量販店 シンフォニーは、パソコン、オーディオ機器などの家電を販売する大型店舗でも利用されています。	
	飲食店舗 全国にチェーン展開する飲食店舗の多くが、当社のシンフォニーによって建てられています。		その他 自動車のショールームやドラッグストアなど、幅広い業種で当社のシンフォニーが利用されています。

8) PFI事業

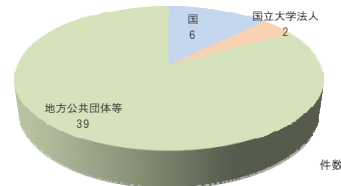
民間の資金・経営ノウハウを活用し、効率的・効果的な社会資本整備・公共サービスを実現するPFIにおいて、当社は単なるファイナンス機能の提供に留まらず、代表企業としてプロジェクト全体のマネジメントや出資を伴う事業参加も積極的に行っています。

これまで当社は、累計で47件を受注し、うち15件は代表企業として取組んでおり、すべてのPFI事業者の中でもトップクラスの実績を誇っています。

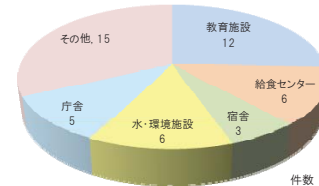
PFI事業における営業資産残高の推移



発注者別PFI事業内訳



施設種類PFI事業内訳



PFI事例 奈良県 新県営プール施設等整備運営事業



事業名：新県営プール施設等整備運営事業

建設地：奈良県大和郡山市宮堂町、磯城郡川西町下永

事業規模 約70億円

開業予定：2014年

事業期間：約18年（整備期間3年を含む）

主な施設：健康増進施設、競技施設、管理施設、公園機能施設、等

落札者：三菱UFJリース、奥村組、アクアティック、近鉄ビルサービス、梓設計、現代ランドスケープ、ニュージェック

改正PFI法について

2011年5月24日に成立した改正PFI法により、コンセッション方式※によるPFI事業が可能となりました。これにより、賃貸住宅や、上下水道、船舶・航空機・鉄道などの輸送施設についても、PFI事業の対象となりました。

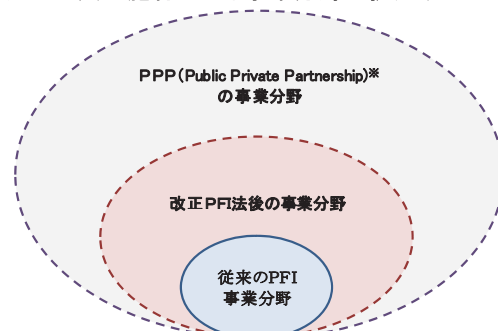
◎主な改正点

コンセッション方式によるPFI事業が可能に

PFI事業の適用範囲の拡大

※コンセッション方式：所有権を官に残したまま、施設の事業権の譲渡を受け、民間にて事業を行う手法

～改正PFI法の施行による事業分野の拡大(イメージ)～

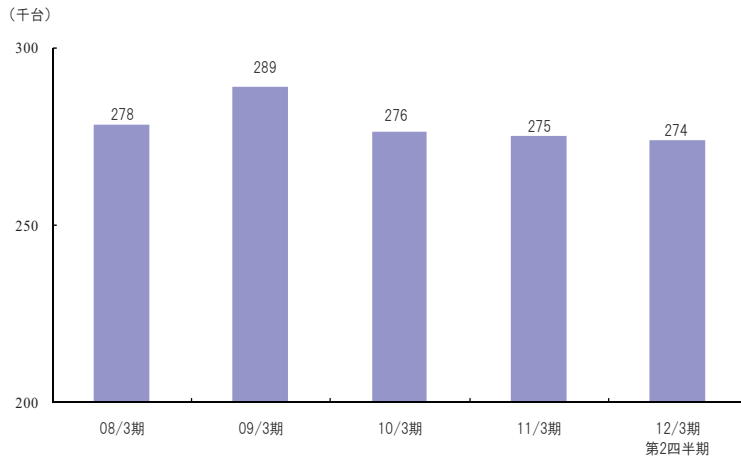


※PPP：官と民がパートナーを組んで事業を行う官民協力の形態

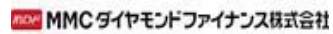
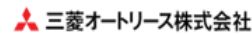
9)オートリース

オートリース事業を行う三菱オートリース(三菱UFJリース50%、三菱商事50%出資)、オートクレジット事業を行うMMCダイヤモンドファイナンス(三菱UFJリース50%、三菱自動車工業47%出資)をグループ会社に擁し、オートファイナンス分野において一層のサービス向上・強化を図っています。2011年9月末時点のグループ全体の車両管理台数は約274千台となっています。

車両管理台数の推移



オートファイナンス・サービスネットワーク

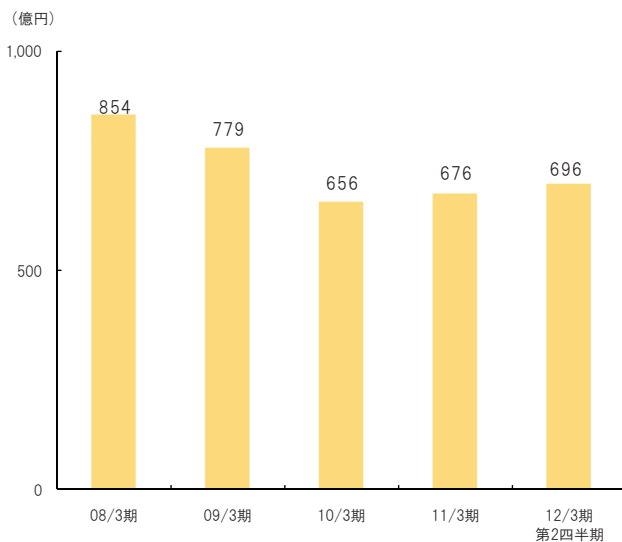


普及が期待される電気自動車と高速充電器

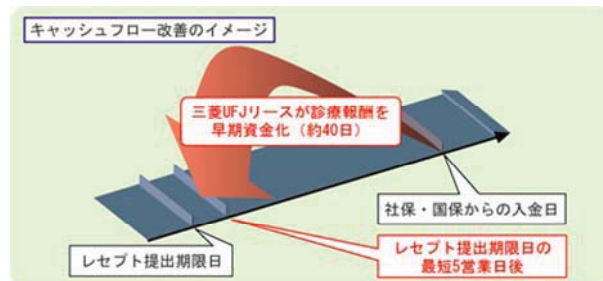
10)ファクタリング

小口大量債権の処理にも適応した専用システムを駆使して、主に売掛債権、診療報酬債権を対象に、お客様の資金ニーズに対応しています。お客様は債権を当社に譲渡することで、早期に資金化が可能となりキャッシュフローの改善を図ることができます。また、ファクタリングを活用して資産のスリム化に繋げるなど、財務戦略にも広くご利用いただいております。

ファクタリング(期中平均)残高の推移



診療報酬ファクタリングのイメージ



主なメリット

- 主なメリット
- ・早期資金化
- ・調達手段の多様化
- ・財務内容の改善(バランスシートのスリム化)

8. 2012年3月期業績予想

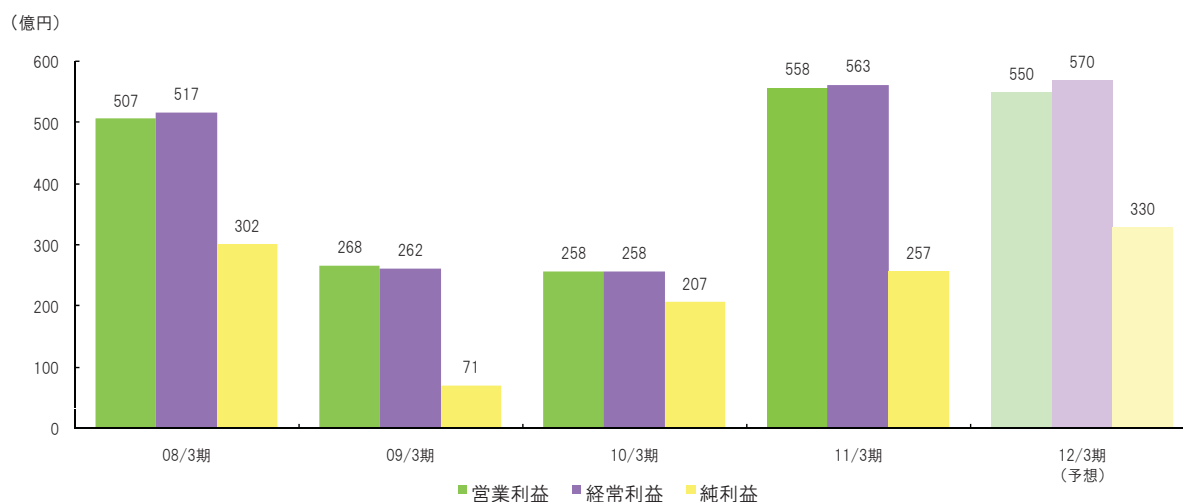
2012年3月期決算(予想)

	連結(※1)			(参考) 期初予想(※2)
	金額(億円)	前期比	期初予想比	金額(億円)
売上高	7,200	-0.7%	-	7,200
売上総利益	1,140	-4.0%	+0.9%	1,130
営業利益	550	-1.6%	+3.8%	530
経常利益	570	+1.2%	+7.5%	530
純利益	330	+28.1%	+10.0%	300
一株当たり配当金	52円	+2円	-	52円

※1 2011年11月8日時点での2012年3月期業績予想

※2 2011年5月16日に公表した2012年3月期業績予想

連結業績の推移



配当推移

	08/3期	09/3期	10/3期	11/3期	12/3期 (予想)
一株当たり配当金(円)	42	46	48	50	52
一株当たり純利益(円)	377	80	231	287	368

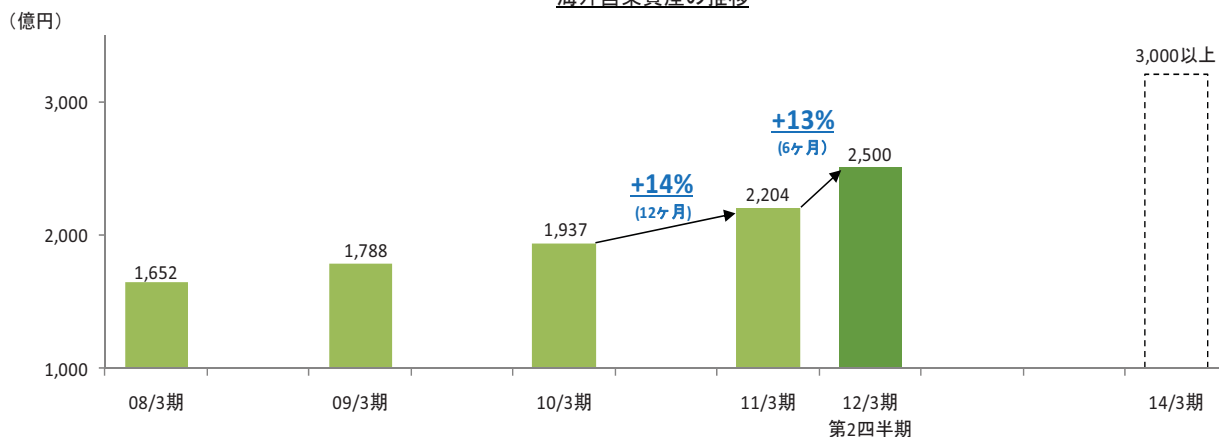
9. 中期経営計画 “ Vision 2013 ”

重点戦略事業(1) 国際・グローバルアセット事業



- 日系企業の海外進出サポート強化
- ベンダーファイナンスの推進
- 地場企業との提携による非日系企業取引の拡大
- グローバルアセット事業の拡大

海外営業資産の推移



重点戦略事業(2) 環境・省エネ事業

三菱UFJリースの特色

■ 豊富な実績

ESCO事業について、業界のパイオニア的存在として積極的に推進。これまでの実績は国内トップレベルの388件。

■ 幅広いソリューション

ESCOからCO2排出権関連サービス、グリーン 電力証書を活用したサービスなど多様な環境・省エネソリューションを提供。

■ 専門組織

環境事業部、オフセットサービス室、環境グローバルサポート室

■ ネットワーク

メーカー、サプライヤー、エンジニアリング会社、建設会社、商社などと構築。

国内での取り組み

■ ESCO事業

当社が手掛ける名古屋大学附属病院向けESCO事業が、「蓄熱システム運転改善事例(平成23年度)」の最優秀賞を受賞。



■ 電力対策ソリューション

電力不足問題に対して、節電、発電、蓄電などに関する最適なソリューションを提供。

■ LED普及

国内クレジット制度を活用したプログラム「MUL-LED普及促進プロジェクト」を通じた、LEDの普及を促進。

海外での取り組み

■ タイ

国際金融公社(IFC)と共同で環境プログラムを開発中。タイで事業を行う企業の環境ニーズに対応。



■ 中国

日本の金融会社として初めてEMCA(Energy Management Company Association、日本のESCO推進協議会に該当)に加盟。市場拡大が期待できる中国での取り組みを加速。



■ その他

ラオスで開催された第一回東アジア省エネ会議に、日本企業の代表として参加。環境投資におけるリースの有効性・重要性について講演。





Value Integrator